

## 第145回気象記念日について

～「気象業務はいま2020」を刊行します～

令和2年6月1日（月）は第145回気象記念日です。気象庁では、次のとおり、表彰及び「気象業務はいま2020」の刊行を行います。

1. 気象業務に功績のあった方への表彰を行います。表彰受賞者は別紙1のとおりです。
2. 広く国民の皆様にご理解いただくことを目的として、「気象業務はいま2020」を刊行します。概要は別紙2-1、2-2のとおりです。

なお例年、気象庁講堂において気象記念日式典を行っておりますが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、式典は中止いたします。

※気象記念日は、明治8年(1875年)6月1日に気象庁の前身である東京気象台において業務を開始したことを記念して、昭和17年(1942年)に制定されました。

### <問合せ先>

表彰に関すること

総務部人事課 飯野

電話 03-3212-8341（内線 2131） FAX 03-3217-1308

「気象業務はいま2020」に関すること

総務部企画課 武藤

電話 03-3212-8341（内線 2261） FAX 03-3211-2032

令和2年6月1日付

## 第145回「気象記念日」気象庁表彰受賞者名簿

## 【国土交通大臣表彰】

## ●一般功績

多年にわたり地球温暖化に関する出前授業など気象・環境教育や防災知識の普及・啓発に積極的な活動により気象業務の健全な発展に寄与した功績

番号	被表彰者名
1	NPO法人 気象キャスターネットワーク

## ●委託観測所（地域・個人）

気象業務に対する深い理解のもとに多年にわたり桜木内地域雨量観測所の委託観測業務に献身的に協力し気象業務の発展に寄与した功績

番号	被表彰者名
1	中島 健

## ●委託観測所（航空）

気象業務に対する深い理解のもとに多年にわたり栗国航空気象観測所の委託観測業務を遂行し気象業務の発展に寄与した功績

番号	被表彰者名
1	栗国村

## ●船舶（表層水温・海流通報）

気象業務に対する深い理解のもとに多年にわたり海洋の表層水温の観測通報に積極的に協力し気象業務の発展に寄与した功績

番号	被表彰者名	
	所属	船名
1	北海道大学	うしお丸

## 【気象庁長官表彰】

### ●一般功績

気象庁大雨ワークショップを活用した普及啓発活動により地域防災力の向上に尽力した功績

番号	被表彰者名
1	NPO法人 栃木県防災士会

多年にわたり火山知識及び防災知識等の普及・啓発活動を行い火山防災意識の高揚に寄与した功績

番号	被表彰者名
1	公益財団法人阿蘇火山博物館久木文化財団 阿蘇火山博物館

気象ビジネス推進コンソーシアムを通じた民間における気象データ利活用の推進に寄与した功績

番号	被表彰者名
1	東京大学大学院情報学環長 学際情報学府長 越塚 登

多年にわたり生活協同組合の各種事業を通して気象庁職員の健康維持・増進及び福利厚生の実現に寄与した功績

番号	被表彰者名
1	気象庁生活協同組合

多年にわたり書籍販売を通して気象庁職員の福利厚生の実現及び気象業務の周知・広報に寄与した功績

番号	被表彰者名
1	津村書店

多年にわたり気象庁職員食堂の営業を通して気象庁職員の健康維持・増進及び福利厚生の実現に寄与した功績

番号	被表彰者名
1	富士食品商事株式会社

日本海溝海底地震津波観測網（S-net）の整備・運用により地震津波監視業務の改善に寄与した功績

番号	被表彰者名
1	国立研究開発法人防災科学技術研究所 地震津波火山ネットワークセンター

日本海における漂流型海洋気象ブイロボットの投入に協力し、海洋観測を通じた海洋気象業務の発展に貢献した功績

番号	被表彰者名
1	京都府農林水産技術センター海洋センター 平安丸

多年にわたる東北地方の火山活動の監視に係る航空機（回転翼機）による観測に貢献した功績

番号	被表彰者名
1	陸上自衛隊東北方面隊

●委託観測所（地域・個人）

多年にわたり地域気象観測所の委託観測業務に献身的に協力し気象業務の発展に寄与した功績

番号	観測所名	被表彰者名
1	しらおい 白老地域気象観測所	山田 忠
2	むかわ 鶴川地域気象観測所	栗原 真宜
3	かみさつない 上札内地域気象観測所	辻 弘司
4	おこっぺ 興部地域気象観測所	高原 直

●委託観測所（地域・団体）

多年にわたり地域気象観測所の委託観測業務に献身的に協力し気象業務の発展に寄与した功績

番号	観測所名	被表彰者名
1	ゆざわ 湯沢地域気象観測所	国土交通省北陸地方整備局 長岡国道事務所長
2	おおゆ 大湯地域気象観測所	株式会社ゆのたに荘
3	はもち 羽茂地域気象観測所	南佐渡消防署長
4	ひみ 氷見地域気象観測所	氷見市学校給食センター
5	はちおうじ 八王子地域気象観測所	八王子市
6	みねやま 峰山地域気象観測所	京丹後市立峰山中学校
7	さじ 佐治地域気象観測所	鳥取市佐治町総合支所
8	かどい 門井地域気象観測所	筑西広域市町村圏事務組合消防本部
9	つけち 付知地域気象観測所	中津川市役所付知総合事務所
10	みぼろ 御母衣地域気象観測所	電源開発株式会社御母衣発電所
11	えび 江尾地域気象観測所	江府町立江府小学校

12	しつかわ 後川地域気象観測所	丹波篠山市教育委員会
13	おうめ 青梅地域気象観測所	東京都農林水産振興財団青梅庁舎
14	しおざわ 塩沢地域気象観測所	南魚沼市長
15	おおしか 大鹿地域気象観測所	大鹿小学校
16	みやよりかみ 宮寄上地域気象観測所	宮寄上浄水場
17	かしわくら 柏倉地域気象観測所	足寄町長
	かみらわん 上螺湾地域気象観測所	
18	うらうす 浦臼地域気象観測所	浦臼町
19	ぬまのさわ 沼の沢地域気象観測所	夕張市農業協同組合
20	おたり 小谷地域気象観測所	小谷村
21	とよさわ 豊沢地域気象観測所	岩手県豊沢ダム管理所
22	なかじょう 中条地域気象観測所	新発田地域広域事務組合消防本部消防長
23	うなづき 宇奈月地域気象観測所	黒部市教育委員会教育長
24	おおやま 大山地域気象観測所	富山市長
25	わかやなぎ 若柳地域気象観測所	奥州市
26	はちまん 八幡地域気象観測所	郡上市消防本部
27	みはま 御浜地域気象観測所	御浜町
28	たるもと 樽本地域気象観測所	妙高市長
29	どうがた 筒方地域気象観測所	上越市板倉区総合事務所
30	こうのす 鴻巣地域気象観測所	鴻巣市役所
31	いちのせき 一関地域気象観測所	一関市
32	かもがわ 鴨川地域気象観測所	鴨川市教育委員会
33	いしかり 石狩地域気象観測所	日正寺
34	かつらぎ かつらぎ地域気象観測所	和歌山県立紀北農芸高等学校
35	さきはま 佐喜浜地域気象観測所	室戸市長

●データ提供

多年にわたり海霧観測及びその成果を提供し気象業務の高度化に貢献した功績

番号	被表彰者名
1	海上自衛隊第2航空群

●船舶（気象通報）

多年にわたり海上気象の観測通報を確実に励行し気象業務の発展に寄与した功績

番号	被表彰者名	
	所属	船名
1	トヨフジ海運株式会社	TRANS FUTURE 5
2	エム・オー・エル・エルエヌジー輸送株式会社	エネルギーフロンティア
3	八馬汽船株式会社	OWARI MARU
4	玉井商船株式会社	NIKKEI SIRIUS
5	海上保安大学校	こじま

●船舶（表層水温）

多年にわたり海洋の表層水温の観測通報に積極的に協力し気象業務の発展に寄与した功績

番号	被表彰者名	
	所属	船名
1	水産庁漁政部	開洋丸
2	福島県水産海洋研究センター	いわき丸

●漁船

海上気象の観測通報に積極的に協力し気象業務の発展に寄与した功績

番号	被表彰者名	
	所属	船名
1	野村漁業株式会社	第86北雄丸
2	岩手県	りあす丸
3	前潟水産有限会社	第58福栄丸
4	羽根田水産有限会社	第8勝栄丸
5	串木野まぐろ株式会社	第八松栄丸
6	株式会社潮	第18千帆丸

(部内職員)

●一般功績

メソアンサンブル予報システムの開発によりメソ気象の確率予測を可能として予報業務の改善に寄与した功績

番号	被表彰者名
1	気象庁予報部数値予報課メソアンサンブル予報システム開発チーム

全球数値予報での雲・雨域の衛星データ利用と初期値作成手法の高度化により台風や雨の予測を改善した功績

番号	被表彰者名
1	気象庁予報部数値予報課全球モデルの初期値作成処理高度化チーム

全国20か所の気象レーダーで初の二重偏波気象レーダーを現業導入しレーダー気象観測の高度化に貢献した功績

番号	被表彰者名
1	気象庁観測部・東京管区気象台二重偏波気象レーダー現業導入担当職員一同

新たな震度予測手法の開発と海底観測網の活用により緊急地震速報の高度化に貢献した功績

番号	被表彰者名
1	国土交通技官 干場 充之
2	国土交通技官 小寺 祐貴
3	国土交通技官 林元 直樹

沖合津波観測データを活用した津波即時予測手法 (tFISH) の開発により津波警報の改善に貢献した功績

番号	被表彰者名
1	国土交通技官 対馬 弘晃

## 「気象業務はいま 2020」の刊行について

気象庁では、気象庁の取組の現状と今後の展望など、気象業務の全体像について広く国民の皆様にご覧いただくことを目的として、「気象業務はいま」を毎年6月1日の気象記念日にあわせて刊行しています。

今年の「気象業務はいま 2020」の主な内容は次の通りです。構成については別紙 2-2 をご覧ください。

### ○ 特集

気象庁の取組の中で特にスポットを当て、内容を詳細に紹介するコーナーです。今年は「激甚化する豪雨災害から命と暮らしを守るために」として、以下の内容について紹介しています。

- 「平成 30 年 7 月豪雨」等を受けた防災気象情報の伝え方の改善に向けた取組
- 「令和元年房総半島台風（台風第 15 号）」や「令和元年東日本台風（台風第 19 号）」等、令和元年に発生した風水害により明らかとなった新たな課題への対応
- 防災気象情報を支える新たな技術の導入と情報の改善

### ○ トピックス

気象庁の最新の取組を紹介するコーナーで、昨年5月から提供を開始した「南海トラフ地震臨時情報」、津波警報等の視覚による伝達のあり方の検討、雪に関する新たな情報、台風に関するハイレベル東京会議、海域・南極等で地球環境を見守る取組、気象情報やデータのビジネス等での活用、人工知能（AI）を用いた竜巻等突風の自動検知等に関する研究開発などを紹介しています。

「気象業務はいま 2020」は、6月1日以降、全国の書店及び政府刊行物センターから注文販売で取り扱います。また、気象庁ホームページの「気象庁関連の刊行物・レポート」ページにも掲載します。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/index.html>



## 「気象業務はいま 2020」の構成

## ○特集 激甚化する豪雨災害から命と暮らしを守るために

- 1 地球温暖化と大雨リスクの増加
- 2 豪雨災害から命を守るために ～防災気象情報の伝え方改善に向けた取組～
- 3 令和元年の風水害と新たな課題への対応
- 4 防災気象情報を支える新たな技術

## ○トピックスⅠ 自然災害から身を守るための気象業務

- 1 「南海トラフ地震臨時情報」の提供開始
- 2 海底から地震・津波を捉える～海底地震津波観測網による緊急地震速報、津波警報の改善～
- 3 津波警報等の視覚による伝達のあり方
- 4 天気分布予報と地域時系列予報を改良しました
- 5 大雪への備え ～雪に関する新たな情報～
- 6 台風に関するハイレベル東京会議

## ○トピックスⅡ 地球環境を見守り、未来に繋げるための気象業務

- 1 海洋気象観測船が捉えた海洋の深層循環
- 2 IPCC 海洋・雪氷圏特別報告書の公表
- 3 高層気象台創立 100 年を迎えて
- 4 南極昭和基地の 60 年

## ○トピックスⅢ 社会や暮らしの中の気象業務

- 1 外国人に向けた防災気象情報の提供
- 2 気候予測データを活用した営農支援
- 3 気象データ利活用の進展
- 4 AI を用いた竜巻等突風の自動探知・進路予測技術の研究開発
- 5 気象科学館がリニューアルオープンします

## ○第1部 国民の安全・安心を支える気象業務

序章 はじめに

- 1章 気象の監視・予測
- 2章 地震・津波と火山の監視・予測
- 3章 地球環境の監視・予測
- 4章 交通の安全などのための取組
- 5章 産業の興隆などのための取組
- 6章 地域の防災力向上へ向けた取組

## ○第2部 気象業務を高度化するための研究・技術開発

- 1章 大気・海洋に関する数値予報技術
- 2章 新しい観測・予測技術
- 3章 地震・津波、火山に関する技術開発
- 4章 大学や研究機関と連携した研究・技術開発

## ○第3部 気象業務の国際協力と世界への貢献

- 1章 世界気象機関（WMO）を通じた世界への貢献
- 2章 国連教育科学文化機関（UNESCO）を通じた世界への貢献
- 3章 国際民間航空機関（ICAO）を通じた世界への貢献
- 4章 各国気象機関等に対する人材育成支援・技術協力
- 5章 我が国の質の高い観測機器の海外展開支援

## ○第4部 最近の気象・地震・火山・地球環境

- 1章 気象災害、台風など
- 2章 天候、異常気象など
- 3章 地震活動
- 4章 火山活動
- 5章 黄砂、紫外線など

## ○参考資料

全国気象官署等一覧、用語集、索引